

心庭晚

加藤克巳歌集

心庭 晩夏

昭和48年5月1日発行

著者

加藤克巳

発行者

角川源義

印刷所

明和印刷株式会社

製本所

株式会社 積信堂

発行所

株式会社
角川書店

東京都千代田区富士見二一十三
〒一〇二 振替 東京 一九五二〇八

電話 東京 (265) 七一一一 (大代表)

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

定価 1700 円

0092—871038—0946

目次

1

機械	続機械	油	森と太陽と思想	猫	一日山野を跋涉し	抽象ねむる	荒草と少年
三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	三一〇
三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九
三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八
三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七

II

空 空 空 空 空

吾哭四三元

石に声	・	・	・	・	・	・	・	・
庭	・	・	・	・	・	・	・	・
現象の意味	・	・	・	・	・	・	・	・
壺	・	・	・	・	・	・	・	・
噴水と鳩とヒマラヤ杉木立	・	・	・	・	・	・	・	・
みだれ踏石	・	・	・	・	・	・	・	・
雪の夜である	・	・	・	・	・	・	・	・
鯉	・	・	・	・	・	・	・	・
あじさい村	・	・	・	・	・	・	・	・
毛がにと諧謔	・	・	・	・	・	・	・	・
寒二月の氣	・	・	・	・	・	・	・	・
鈍痛	・	・	・	・	・	・	・	・

二
只
三
毛
告
告
公
公
秃
毛
齒
七

’68 黒い光

残亡

岩

風山

実朝月

野靈

屈折光

’69 亀裂

猫の黒

石

破片

雪雀

一 窓 開 置 置 置 置 置 置 置 置 置

マツチ	一五三
神やある	一五四
信号	一五五
眩暈	一五六
内と外	一五七
雪あけの	一五八
一本の棒	一五九
海胆の欲望	一六〇
抽象の裔	一六一
古庭の古池	一六二
まぐろの口腔	一六三

春望	・	・	・	・	・	・	・
深森ぬけて	・	・	・	・	・	・	・
茗荷の葉	・	・	・	・	・	・	・
犬が来て	・	・	・	・	・	・	・
豪快な雪晴れ	・	・	・	・	・	・	・
酒も'70年も	・	・	・	・	・	・	・
谷の吊橋	・	・	・	・	・	・	・
一本の草が	・	・	・	・	・	・	・
形	・	・	・	・	・	・	・
鉄煮る炎	・	・	・	・	・	・	・
雲と霞	・	・	・	・	・	・	・
山陰冬墓	・	・	・	・	・	・	・
	一	二	三	四	五	六	七
	八	九	十	十一	十二	十三	十四

青の森	・	・	・	・	・	・	・	・
現坂	・	・	・	・	・	・	・	・
怒りの石の	・	・	・	・	・	・	・	・
崩れ崖	・	・	・	・	・	・	・	・
現世	・	・	・	・	・	・	・	・
むらぎもの	・	・	・	・	・	・	・	・
虧け耳	・	・	・	・	・	・	・	・
くるめき	・	・	・	・	・	・	・	・
暗愚伝	・	・	・	・	・	・	・	・
青竹の	・	・	・	・	・	・	・	・
雨雲ふかく	・	・	・	・	・	・	・	・
ひずんだ円球	・	・	・	・	・	・	・	・
	三六	三四	三一	五六	五五	五三	五二	五九

夏は逝きたる

三〇

すっぽん塚

三三

あその石

三六

あとがき

三九

I

機 械

歯車は着実に執拗に回転し実にゆっくり力を
伝う

歯車と歯車噛み合い緩漫に左右へ別れ左右か
ら噛む

歯車の冷徹な噛合いの完璧な力と力の無限の世界

音のない機械の力絶え間ないそのしづかなる運動源は

乳白色の液をあびつってらと冷たきまでのハガネの光り